

# 大善寺だより

## 炎夏過ぎし思秋期

春夏秋冬という四字熟語。これほど響きの良い、私達ニッポンにふさわしく美しい言葉はないのではないのでしょうか。世界中から外国人が引きも切らず訪れているのもそれを楽しみたい一因なんだろうかと思えます。

ところで最近、その四季のうつろいが変わってきています。その季節にいたるはずない動物の出没。海や川の生き物の行動の変化と減少など。果たして春夏秋冬はどうなってしまうのだろうか。そんなことを想う処暑の頃です。

今年、浄土宗は開宗八五〇年を迎え、宗宝の数々を一堂に集めた特別展「法然と極楽浄土」が東京国立博物館に多くの観客を呼び、大盛況を納めました。続いてこの秋、場所を京都博物館に移し、同様に特別展が開催されます。観覧に行かれた方も多くいらっしやると思います。観覧に行かれた方はまたとない機会。是非ご覧いただくことを強くおすすめします。

お寺にこの特別展の図録を暫く置きますのでご覧になりたい方は寺務所に遠慮なくお申し出ください。

法然上人のご法語の中「一仏浄土の友たらん」というお言葉が出て参ります。

この時代、上人が念仏の教えを説き弘めていきますと、様々な謗り、非難するものが出てきました。このことに上人は一切怒ったり反論することなくむしろ、その輩も必ず浄土の九品蓮台に縁を結んで、信仰の同じものも異なるものも互いに縁が実って、阿弥陀仏の浄土の友となる。（\*ご法語には順逆二縁とあります\*）と仰せになりました。

善人・悪人・どんな人も区別なく、時・処・場面も選ばないお念仏の教え（信）と行。法然上人はその生涯を懸けお弘め下さいました。

四季の移ろいに変化が見えても、立教開宗されて八五〇年を迎えた浄土宗のお念仏の教えは国内外を問わず選ばず、阿弥陀さまの極楽浄土にたくさん「浄土の友」の縁を結んでいます。

ところで・・・

どなた様も参加大歓迎の大善寺月例「読経会」。

阿弥陀さまと向かい合って、僧俗いっしょにお経を讀み、木魚を叩きながらお念仏を称えます。

紅葉してゆく梢を愛で念仏行に更けるのは最上（善行）のことです。

それと別に「大善寺写経会」ではお経にじっくり向かい合えます。写経会もどなたの参加も歓迎です。どうぞお出かけください。合掌

大善寺 田邊裕誠

## 大善寺と機守社の歴史

浄土宗の歴史を繙く中で、改めて当山大善寺と機守社についておさらいをしたいと思います。

### 観池山往生院大善寺

創建は、天正年間（1573～1592）北条氏照（立川能登守の子）が、讃誉牛秀（慶長十年1605寂）に帰依して開基となり、滝山城下に建立されました。八王子城の築城にともなう滝山城廃城により大善寺も八王子城下へ移転。更に八王子城の落城で大横町（大横町時代は三百五十年と最も長かった）に移り、多摩川支流の浅川に面し、街道を挟んだ向かいにある同じ浄土宗の極楽寺とともに、交通の要衝で色々な役目を果たすことになりました。この大横町時代に徳川家康公から朱印を授かり檀林（だんりん：江戸時代初期に定められた関東における浄土宗の僧侶の養成機関・学問所のこと。江戸時代には浄土宗の僧侶の養成はこの檀林に限られていた）となっており、江戸時代が徳川家のもとで落ち着くと、八王子の大善寺は十夜寺（じゅうやでら）として大いに栄え、末寺二十三か寺を持つ大寺となりました。また、明治二年1869年には勅願所（ちよくがんしょ：勅願により、国家鎮護などを祈願した神社や寺院）にもなっており、開山の讃誉牛秀（ぎゅうしゅう）上人は、浄土宗の布教書の元となる「説法色葉集（せっぽうしきようしゅう）」を著しました。八王子総奉行大久保長安や代官竹本権右衛門等の援護により発展し、第二世合牛（がんぎゅう）上人、檀林大光院の開山となる第三世の呑龍（どんりゅう）上人など優秀な学僧を多く輩出してきました。

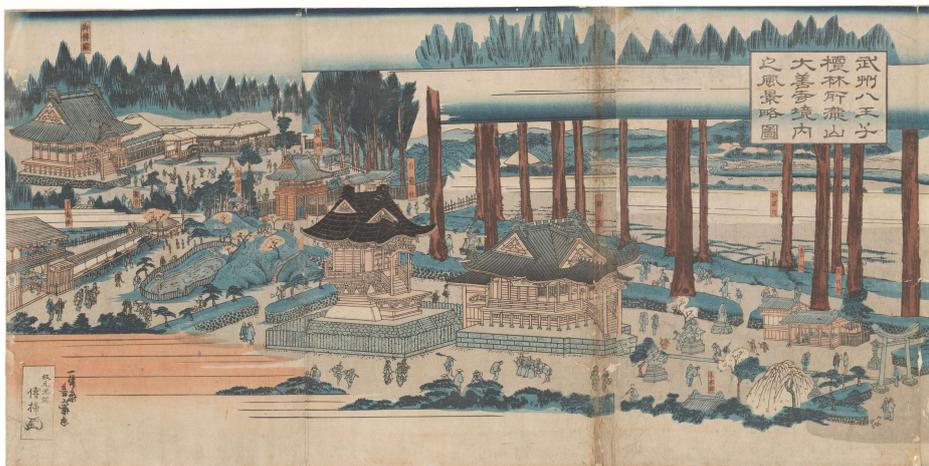


法然上人  
**浄土宗**  
開宗850年  
お念佛からはじまる幸せ  
令和6年

### 機守神社（はたがみじんじや）

桓武天皇の時代、奈良から平安京に都が移された際、郡役人の久助が宮中に仕えました。そこで久助は、身分の高い白瀧姫に恋をしました。天皇が苦勞をねぎらうために望みを尋ねたところ、久助は白瀧姫を嫁に欲しいと願いました。天皇は和歌の競い合いを提案し、勝った久助は白瀧姫と結ばれ、上野国（現在の群馬県桐生市）に住みました。白瀧姫は養蚕や織物を里人に教え、没後は機守様として祀られました。

文政二年、八王子の職人が夢告を受けて大善寺境内に機守様を勧請しました。以来、織物産業の神様として、また、縁結びの神様として篤い信仰を受けています。



『武州八王子檀林所瀧山大善寺境内之風景略図』  
【八王子市郷土資料館所蔵】

江戸期、大横町時代の境内図。題名は大善寺境内と銘打たれていますが、図の中心は機守社（白瀧社と表記）となっており、当時の機守信仰の篤さが偲べれます。画の奥には浅川が描かれ、本堂（仏殿）と呑龍社が左に描き込まれています。写しが大善寺の待合室に掲示されています。ぜひ一度ご覧下さい。

# 【おすすめブックガイド】

## 特別編

『「松本清張」で読む昭和史』

松本清張記念館来訪記



## 松本清張 記念館



お墓という性質上、あまり大々的に喧伝しておりませんが、当霊園には作家の松本清張氏の墓所があります。没後30年を過ぎた今でも多くのファンが支持する人気作家であります。

このほど、機会があり、北九州は小倉にある「松本清張記念館」を表敬訪問して参りました。

快く迎えてくれた館長さんが、なんと中央大学出身で、4年間、元横山町で過ごしたことのある八王子有縁の方でした。

ご自身の青春時代を懐かしく思い出されながら、お墓にはお参りすることができず、おらず心苦しく思っていたところに、霊園から関係者が来てくれたことを非常に喜んでくださいました。

館長自ら館内展示をきめ細やかに案内して下さり、大変興味深く清張氏の生涯と功績を学ばせて頂きました。

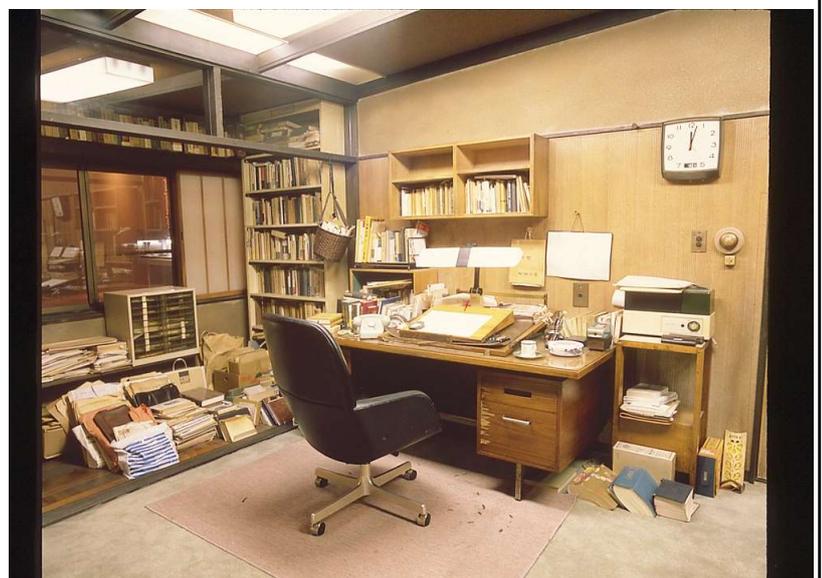
### ■松本清張記念館の概要

入ってまず目に飛び込むのは膨大な著作の表紙を壁一面に並べた展示です。圧巻の一言に尽きます。

次に、幅20メートルほどの巨大な年表には82年の生涯が、当時の世相や政治・経済状況と重ねて示されており、代表作品が世に産み出された背景をわかりやすく示してくれています。

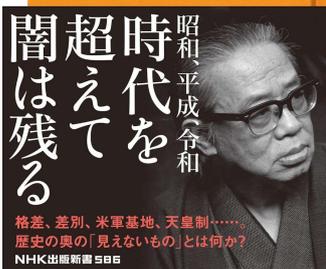
最大の見どころは、杉並区のお住まいの内装・家具・什器・書庫、そして書齋そのものを全てご家族が寄贈し、丸々実物で再現されている展示室です。

2階建てのお住まいの、玄関から応接室のソファ、テーブル、書庫の膨大な書籍と紙袋に詰まった取材メモや切抜きまで、実際に現場をくまなく写真で撮影してから移送し、寸分違わず配置してリアルに再現されています。今にも書庫の向こうから清張さんがふらりと和服で現れそうな雰囲気を感じ出していました。特別な密封を施し、空調システムを完備しているため、館長でさえも内部には立ち入ることが許されていないそうです。



当時の書齋をそのまま再現した展示  
亡くなった日に止まったままの時計やカーペットのタバコの焦げ跡が生き生きと雰囲気を与えています

■松本清張の挫折と屈折  
家庭の経済的挫折で希望する進学ができず、それが生涯のコンプレックスであったといえます。しかしそれがバネとなり憧れだった新聞記者顔負けの徹底した資料収集・取材力が発揮され、ジャンルを問わず、堅実な作品群として結実したのです。



NHK出版新書 原武史 著  
2019/10/10

混迷を極める現代を清張さんならどう見たか？ 作品解説を通して深読みしています。

## 【仏教作法の基礎知識①】 『般若心経』のはなし

日本一有名なお経といってもいいでしょう。正式には『摩訶般若波羅蜜多心経』といえます。

般若経という大部の経典の極一部分、核心の部分であることから「心経」と称されています。

仏教の教えの柱の一つ、「空（くう）」の思想を説く経典で、鍵となる文は、有名な「色即是空 空即是色」であります。

全ての物質（色）は、存在するが存在しない（空）。空ではあるが存在している物質である。

ということを述べています。

物理学の最先端である量子力学では、この「存在するが、存在しない」という物事の捉え方をしています。

ありとあらゆる物質は、細かく細かく分解していくと量子という単位に辿り着き、それが仮に組み合わさって成り立っているという原理です。

仏教ではこれを「仮和合（けわごう）」と言います。

ついつい、目の前のこと、目先の出来事に一喜一憂して心を揺さぶれてしまうのが私たちですが、一步引いて、いわゆる「メタ」の視点で身の回りを観察することで苦しみから逃れましょう、という生き方の処方箋が説かれているのです。

## お焚き上げをお願いします

このところ、ご相談が増えている、お住まいの仏壇やお位牌等のお焚き上げをお願いします。お困りの方はお気軽にご相談ください。

### 【参考費用】

\*お仏壇

高さ100センチ迄 5000円（供養料込み）  
それ以上は基本料金に＋5000円

\*お位牌

何基でも1000円

お仏壇供養込みであればお仏壇代のみ

\*お仏像、掛け軸、ご遺影、人形

何点でも1000円

お仏壇供養込みであればお仏壇代のみ

\*その他 仏具もご相談に応じます。

（注）ガラス、刃物、灰はお引き取りできません



## ◇今後の行事予定

11月2日（土）お十夜

☆一大行事のため、ご法事はお受けできません  
お墓参りは可能です  
なるべく公共交通機関をご利用ください

### 《月例行事》

◎隔月 第3土曜 「お寺の学校」公開講座

午後2時より講演

◎毎月 第1水曜「大善寺サロン読経会」

午後1時

一緒に読経&気軽な「終活相談」

◎毎月 第4土曜「写経会」

午後1時

『般若心経』『四誓偈』

『一枚起請文』

◎10月は八王子「まちゼミ」にも参加します 「写経体験」です



## 「大善寺だより」第32号

令和6年9月発行

発行人 田邊裕誠

発行所 観池山大善寺

東京都八王子市大谷町1019-1

Tel. 042(642)0716

HP <https://fujimidairen.jp>